

## 参考資料 3

### 接種スケジュール

# 予防接種スケジュール

大切な子どもを VPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、接種できる時期になったらできるだけベストのタイミングで、忘れずに予防接種を受けることが重要です。このスケジュールは「VPDを知って、子どもを守ろう。」の会によるもっとも早期に免疫をつけるための提案です。お子さまの予防接種に関しては、地域ごとの接種方法や VPD の流行状況に応じて、かかりつけ医とご相談のうえスケジュールを立てましょう。

ワクチン名	接種済み ☑	0 歳											1 歳											2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	7 歳		
		1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	1歳	1歳	1歳	1歳	1歳	1歳	1歳	1歳	1歳	1歳	(満年齢)							
<b>不活化</b> ワクチン B型肝炎	<input type="checkbox"/>	←①-②→											←③→																		
<b>不活化</b> ワクチン ヒブ	<input type="checkbox"/>	①-②-③→											←④→																		
<b>不活化</b> ワクチン 小児用肺炎球菌	<input type="checkbox"/>	①-②-③→											←④→																		
<b>不活化</b> ワクチン 三種混合 (DPT)	<input type="checkbox"/>	①-②-③→											←④→																		
<b>生</b> ワクチン BCG	<input type="checkbox"/>	←①→											←④→																		
<b>生</b> ワクチン ポリオ	<input type="checkbox"/>	←①-②→											←④→																		
<b>生</b> ワクチン MR (麻しん風しん混合)	<input type="checkbox"/>												①→																		
<b>生</b> ワクチン みずぼうそう (水痘)	<input type="checkbox"/>	みずぼうそう (水痘)・おたふくかぜは、MRとの同時接種もできます											←①→																		
<b>生</b> ワクチン おたふくかぜ	<input type="checkbox"/>												←①→																		
<b>不活化</b> ワクチン 日本脳炎	<input type="checkbox"/>																														
<b>不活化</b> ワクチン インフルエンザ	毎秋 <input type="checkbox"/>												インフルエンザ： 毎年2回、10月と11月ごろに接種しましょう																		

**細菌性髄膜炎はヒブと小児用肺炎球菌の2つのワクチンで予防「髄膜炎ワクチンセット」と覚えましょう**

二種混合 (DT) :  
11歳で追加接種  
(接種対象11-12歳)

MR (麻しん風しん混合) :  
平成20年度~24年度に中学1年生と  
高校3年生に相当する1年間に接種

MR (麻しん風しん混合) :  
小学校入学の前年 (幼稚園・保育園の年長に相当)  
1年間に接種 (4月~6月がおすすめ)

**不活化** 不活化ワクチン    **生** 生ワクチン    定期予防接種の対象年齢    任意接種の接種できる年齢    ←○→ おすすめの接種時期(数字は接種回数)

※定期接種：定められた期間内であれば公費(無料)で受けられる予防接種。 任意接種：ほとんどの場合、全額自己負担(有料)で受ける予防接種。

		出生時	3カ月	6カ月	9カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳
予 防 接 種 法	定期	*1 DPT I期 DT II期	DPT										DT												
		BCG	↓										↓												
		ポリオ (経口)	↓										↓												
		麻疹・風疹 混合(MR)	↓										↓												
		2種麻疹(はしか) 風疹	↓										↓												
		麻疹・風疹 混合(MR)	↓										↓												
		日本脳炎	↓										↓												
		A型インフルエンザ HAワクチン(H1N1株) (国産)	↓										↓												
		Hib *3 (インフルエンザ菌b型)	↓										↓												
		肺炎球菌 *4 (7価結合型)	↓										↓												
任 意 接 種		肺炎球菌 (23価多糖体)	↓										↓												
		インフルエンザ	↓										↓												
		水痘	↓										↓												
		おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)	↓										↓												
		B型肝炎	↓										↓												
		A型肝炎	↓										↓												
	HPV *6 (ヒトパピローマウイルス)	↓										↓													

\*1 D:ジフテリア、P:百日咳、T:破傷風を表す。  
 \*2 原則としてMRワクチンを接種。なお、同じ期内で麻疹ワクチンまたは風疹ワクチンのいずれか一方を受けた者、あるいは特に単抗原ワクチンの接種を希望する者は単抗原ワクチンを接種。  
 \*3 2008年12月19日から国内での接種開始。生後2か月以上5歳未満の間にある者に行うが、標準として生後2か月以上7か月未満で接種を開始すること。接種方法は、通常、4~8週間の間隔で3回皮下接種(医師が必要と認めた場合には3週間間隔で接種可能)。3回目の接種後おおむね1年の間隔において、1回皮下接種。接種開始が生後7か月以上12か月未満の場合は、通常、4~8週間の間隔で2回皮下接種(医師が必要と認めた場合には3週間間隔で接種可能)。2回目の接種後おおむね1年の間隔において、1回皮下接種。接種開始が1歳以上5歳未満の場合、通常、1回皮下接種。  
 \*4 2009年10月16日に薬事法に基づき製造販売承認され、2010年2月24日から国内での接種開始。生後2か月以上7か月未満で開始し、27日間以上の間隔で3回接種。追加免疫は通常、生後12~15か月に1回接種の合計4回接種。接種もれ者には、次のようなスケジュールで接種。生後7か月以上12か月未満の場合: 27日以上の間隔で2回接種したのち、60日間以上あけて追加接種を1歳以降に1回接種。1歳: 60日間以上の間隔で2回接種。2歳以上9歳以下: 1回接種。  
 \*5 妊娠中に検査を行い、HBs抗原陽性、陰性の両方とも)の母親からの出生児は、出生後できるだけ早期及び、生後2か月にHB免疫グロブリン(HBIG)を接種、ただし、HBs抗原陽性の母親から生まれた児の場合は2回目のHBIGを省略しても良い。更に生後2.3, 5か月にHBワクチンを接種する。生後6か月後にHBs抗原及び抗体検査を行い必要に応じて任意の追加接種を行う(健康保険適用)。  
 \*6 HPV16型・18型(子宮頸癌予防)。日本産科婦人科学会、日本小児科学会、日本婦人科産科学会連名の「ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン接種の普及に関するステートメント」平成21年10月16日付によると、推奨される年齢は、以下の通りとなっています。「優先的接種推奨年齢: 11~14歳の女子。11~14歳で受けることができなかった場合の接種推奨年齢: 15歳~45歳の女性。」